

業務部速報

No. 38

発行 17. 12. 21

JR東労組 業務部

申11号「安全と命、サービスが低下するワンマン運転」に反対する緊急申し入れ

第1項 東日本大震災の教訓を踏まえ、沿岸線区のワンマン運転をツーマン運転とすること。

会社回答：

ワンマン運転は輸送量の閑散な線区において、ご利用状況や列車の編成両数等を勘案し実施している。

なお、沿岸線区における津波注意区間を担当する乗務員区所においては、防災業務実施計画に基づき津波対応マニュアルを整備し必要な教育・訓練を行っている。

組合の主張

社員が自分の命を守ることを第一にすべきだ！

ワンマンの基準に防災の視点が必要だ！

一人よりも二人の方がやれることが多く安全性が高まる

東日本大震災の教訓は何だと認識しているのか？

ワンマンの導入基準は明確にできるのか

“誰かが助けてくれる”ことが前提の計画で本当にいいのか!?

会社の認識

自分の身の安全を守ることは一番大事だがマニュアル類にあえて書く必要はない

ワンマン可否と防災対策は別問題だ

ワンマンでもツーマンでも安全性は同等である

社員が自律して判断して行動した。奇跡ではない！

東日本大震災ではお客様も手伝ってくれた

災害対応のPDCAサイクルを回すことが大事。CAで不十分さは認める

ご利用状況を個別に見て判断する明確な数値基準はない！

会社の回答からは、東日本大震災の教訓について認識が合わないばかりか、社員が自らの命を守ることを徹底的に追求しているとは感じ取れませんでした。

さらに、ワンマン運転の基準においても、防災の視点はワンマン運転と分離する考えを示しています。命を守ることよりも「ご利用状況と効率性を見て決める」というワンマン運転であることは明らかです！

命を大事にしない会社施策は絶対に許されない！